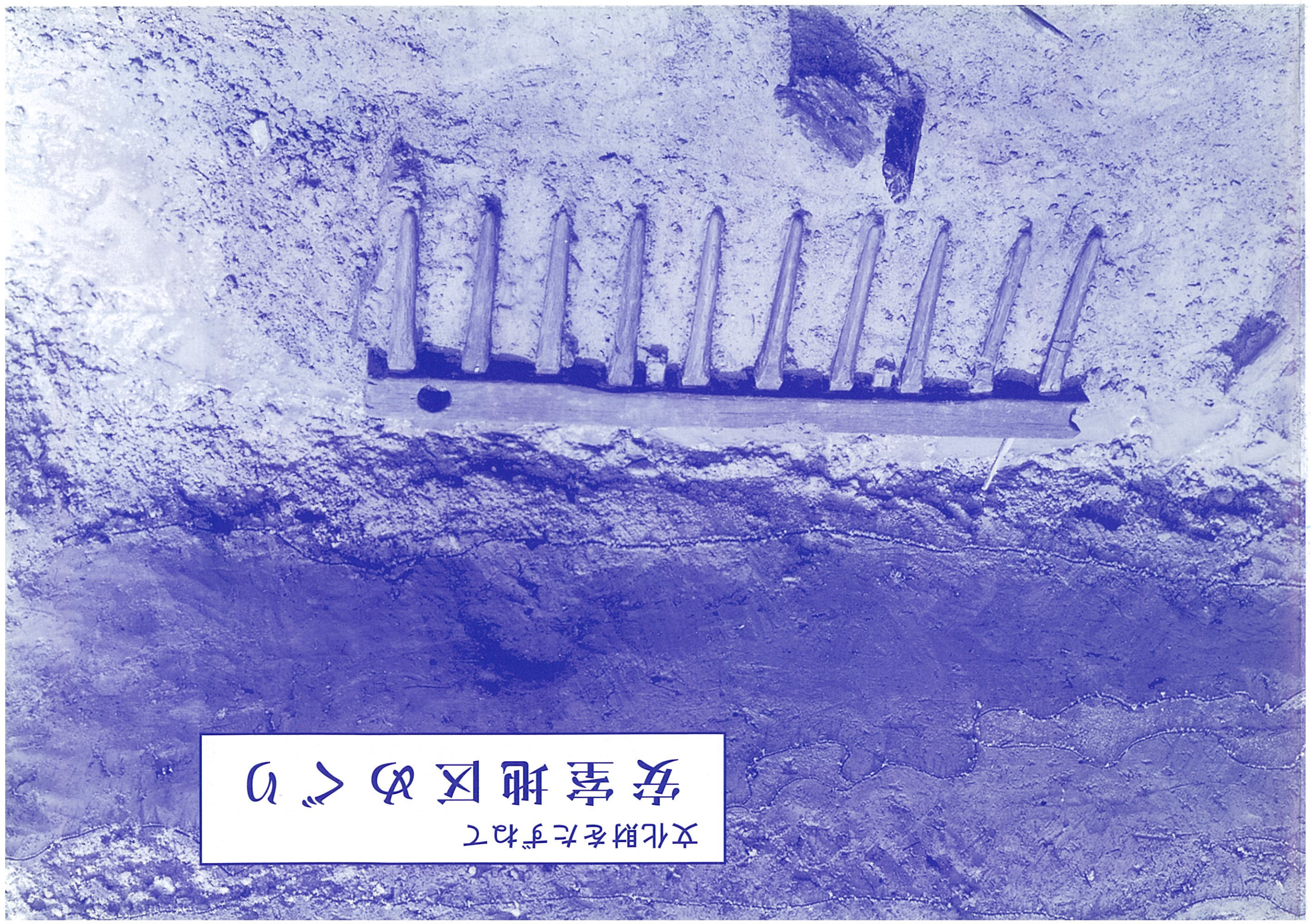
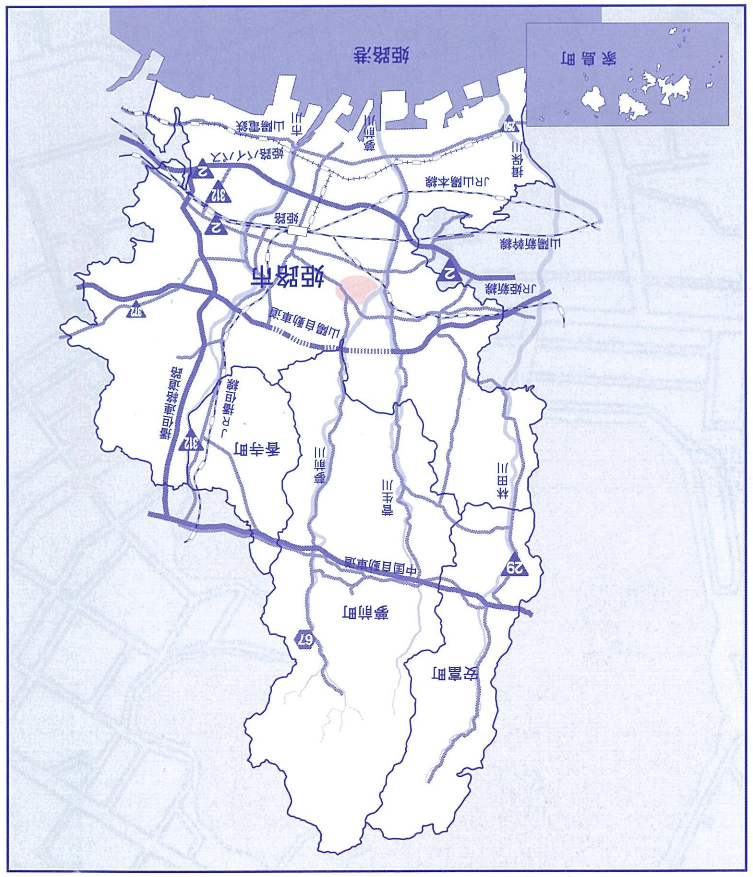
文化財をたずねて

安室地区めぐり





交通案内

神姫バス　JR姫路駅北バス乗り場から書写駅行き・または大池台行き　約一五分、姫高前バス停下車

コース案内

姫高バス停前～(一〇〇〇ﾒｰﾄﾙ)～東山観音堂～(九〇〇ﾒｰﾄﾙ)～前山の地蔵尊～(七五〇ﾒｰﾄﾙ)～北山道標～(四〇〇ﾒｰﾄﾙ)～薬師堂～(九〇〇ﾒｰﾄﾙ)～勝瑞寺～(五〇〇ﾒｰﾄﾙ)～四軒屋地蔵尊～(六〇〇ﾒｰﾄﾙ)～田寺の地蔵尊～(三〇〇ﾒｰﾄﾙ)～田寺の道標～(二〇〇ﾒｰﾄﾙ)～辻井廃寺跡・辻井遺跡・バス停山吹

表紙説明

辻井遺跡出土品、七世紀頃の馬鍬。材質は樫の木で渡来系技術で製作されたもの。発掘調査で検出された旧夢前川流路で祭祀に使用された斎串・人形・木偶等の木製品や鳥形・琴柱形等の土製品とともに出土した。辻井遺跡は名古山北西の沖積地に位置し、縄文時代中期から弥生時代の集落跡と奈良時代前期の豪族居館跡と寺院跡（辻井廃寺）がある。

平成19年3月1日（姫路市教育委員会
姫路市文化財保護協会）発行

安室地区は、『播磨国風土記』の「巨智里」にあたり、一〇世紀には「辛室郷」に属し、その後「安室郷」と改名された。元弘三年(一三三三)隠岐を脱出した後醍醐天皇が書写山に宿泊し、安室郷を寄進した話はよくしられている。かっては農業中心の地域で、昭和三七年に姫路市立営農試験所(昭和四四年に農業センターと改称し、同五五年山田町に移る)が設立された。昭和四〇年代から宅地造成がすすみ、住宅地として発展し、生涯学習大学校や好古学園大学校などの教育施設も集中している。

夢前川と横関

夢前の名は、『播磨国風土記』に「射目前」とか「夢前ノ丘」とあるのに由来する。同書には川の名を「手沼川」といい、応神天皇が手を洗われたとある。この川は、もと蛤山の東麓を南流し、今宿から荒川に至る流れが主流であったとされる。今の流れは、明暦二年(一六五六)姫路藩主榊原忠次が横関を設けて流れを現在のように変えたとされる。

薬師堂

高さ七二・五㎝の木造座像の薬師如来を祀る。この仏像はもと高取山の西南端の長尾寺に祀られていたと伝えられる。室町時代の作ではないかといわれる。堂前に火袋の部分が補修されているが、万治三年(一六六〇)の石燈籠や、文政一一年(一八二八)の小鐘、寛政五年(一七九三)の木製の賽銭箱がある。

北山古墳

横穴式古墳。この付近には小規模だが、北山の馬瀬古墳群・大谷古墳・河野遺跡・檜尾遺跡など多くの遺跡が確認されている。

北山の道標

安政三年(一八五六)の道標は「左しょしゃさん道　右ほっけさん・ひろみね道」などと刻まれている。すぐ上手にある安政六年(一八五九)の道標は「左ひろみね・ほっけ山ミち　右書写山鹿谷道　左たつの・むろつ・びぜん・あぼし道」とある。近くに二つの道標があるのは複雑な道を迷わぬように建てたのであろうと思われる。この道は書写山と法華山を結ぶ巡礼道であるが、もう一段上の中腹に近道があった。

住吉神社

寛保二年(一七四二)の御立村明細帳に住吉大明神氏宮とみえるが、創立年月・由来は不詳。境内に文化一三年(一八一六)・弘化二年(一八四五)の手洗い石や、文久二年(一八六二)奉納の狛犬がある。平成一一年一二月に拝殿などを改築。

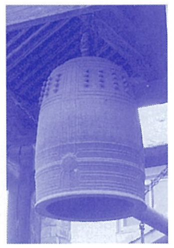
大日如来堂

寛保二年(一七四二)に大日堂とみえる。本尊の大日如来は高取山にあった長尾寺に祀られていたものと伝えられる。

山田荒神社

奥津彦神・奥津姫神を祭神とし、竈神社ともいう。天保年間より氏子が当番制で常夜灯に灯をともし続けてきた伝統が今も引き継がれている。

勝瑞寺



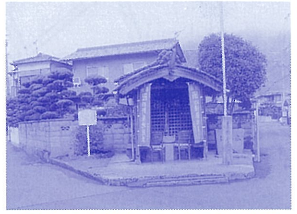
はじめ天台宗の寺院であったが、文明一六年(一四八四)に浄土真宗に改宗。この寺の梵鐘は、もと廣峯神社にあったもので、明応六年(一四九七)の作。姫路野里の鋳物師の名が鐘銘に現れた最初のもので市指定文化財になっている。寛政六年(一七九四)の追銘もある。

御立山の紀念碑

『播磨国風土記』に応神天皇が視察したという「大立丘」はこの独立小丘だろうと比定されている。山上の碑は明治四二年四月皇太子(のちの大正天皇)がこの地で陸軍参謀演習を視察されたことを紀念して同四三年に建立したもの。

四軒屋の地蔵尊

地蔵の台座に「左志よしゃ道　右かや道」と刻まれ、巡礼者の安全を守ってきた。寛保二年(一七四二)御立村明細帳にも「石地蔵書写道加屋(鹿谷)道わかれ」とみえる。堂の左側に元禄三年(一六九〇)と刻まれた石標がある。



四軒屋の鹿谷道と横大道の分岐点にある地蔵尊

善覚寺

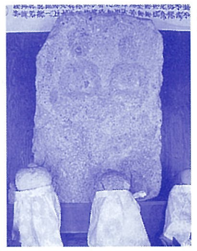
真宗の寺院。大永七年(一五二七)赤松の末裔という善覚の開基。その後木仏・寺号を下付される。

東山の観音堂

善覚寺の地にあったが、大永七年(一五二七)東山に移され、昭和五四年にそこから一〇〇m西の現在地に新堂が建立された。円教寺ゆかりのお堂と伝わる。

田寺の地蔵尊

田寺東部の「ださい溝」に埋没していた石仏を発見し、村内に地蔵尊として祀ったが、事情で転々とその位置を変えてきた。平成一九年二月、はじめに祀っていた位置に新堂を建立し遷した。田寺村明細帳に「地神薮」とあるのがこの石仏であれば、寛延三年(一七五〇)以前から村はずれに祀られていたといえる。一つの石に二体の仏像が刻まれている。



高岡神社

明治四年(一八七二)袖振山(蛤山)の高岳神社から分社し、田寺の氏宮となる。昭和四五年に改築。

六本の御薗

田寺字六本は、古くは「六本松」といった。『播陽うつゝ物語』に、後醍醐天皇が書写へ登山のおり、書写政所藤原信綱の娘小柴が六本の松松井の辺に御薗を構えたという話がある。明治頃まで六本の松の株が残っていたという古老の話が伝わっている。

田寺六本の道標

「従是書写山江二十丁　左
姫路宿屋町江二十五丁　右
車崎六丁目道」、背面に「文久二年(一八六二)」と記された道標。この地は御立四軒屋を通り書写へ至る巡礼道であった

西蓮寺と庭石

辻井の辻本家の先祖が開基仏を申受け、了益(薩摩の武士で慶長頃に飾磨津に滞在中出家した)を招いて道場を開いたという。天和三年(一六八三)木仏・寺号を下付される。境内に辻井廃寺跡出土のものだといわれる石棺の一部や礎石が庭石として置かれている。

行矢神社

射楯大神と兵主大神を祭神とする。神功皇后が朝鮮出兵のとき麻生山から三本の矢を射たところ、その一本がこの地に落ちたという。当神社は、はじめ矢落村(新在家)または八丈岩山に鎮座していたが、のち今の地に遷された。明治三年、一〇世紀の『延喜式』にみえる射楯兵主神社は当社であるとされたが、今は総社としている。

辻井遺跡

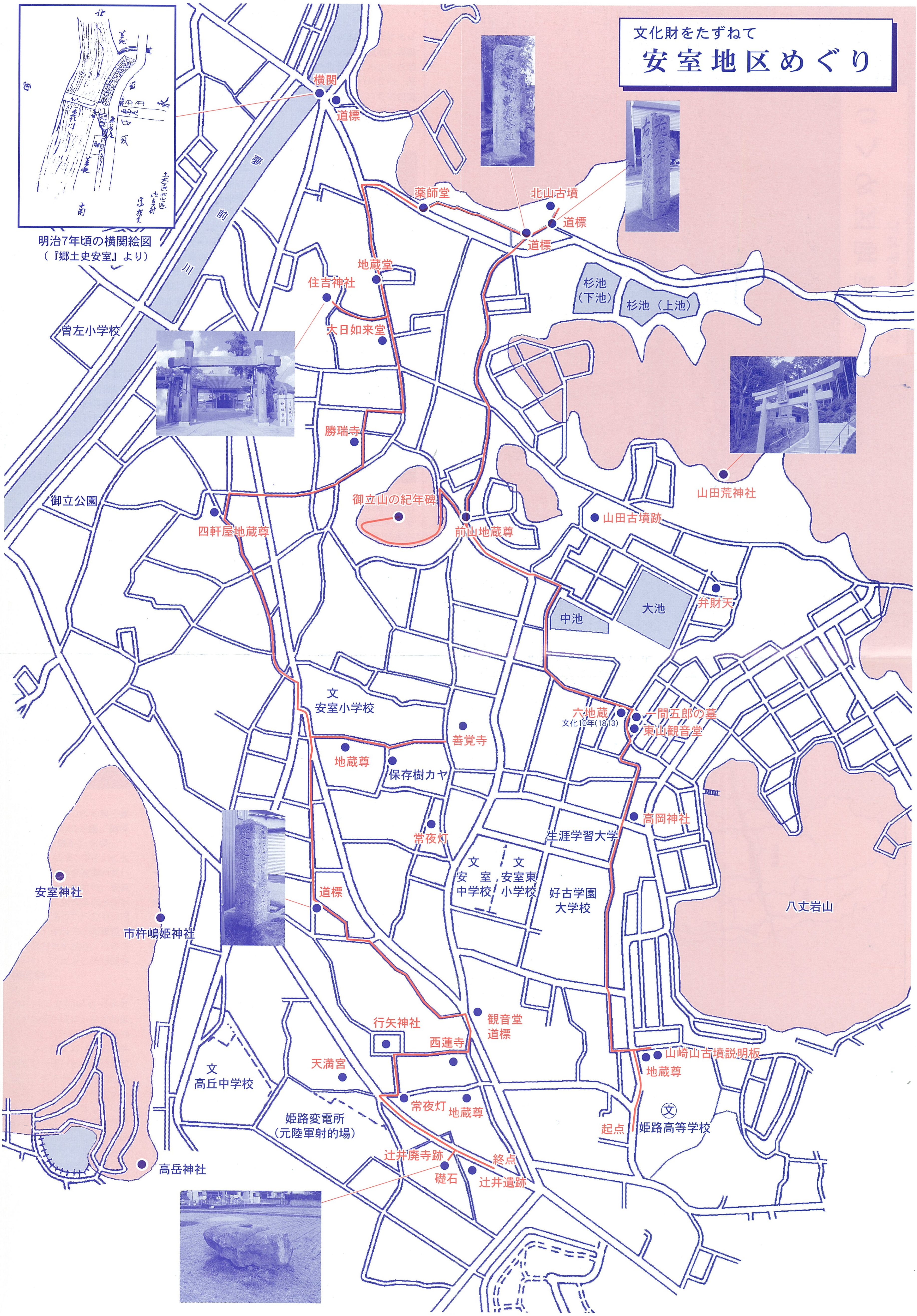
辻井字東藤ノ木にある。縄文時代中期から弥生・古墳時代にかけて多くの土器・石器などが出土した。ここで発見された人骨は縄文中期のものといわれ、県内では数少ない発見である。

辻井廃寺跡

辻井字藤ノ木の田の中に大きな礎石があり、古瓦なども発掘された。これは白鳳時代の寺院跡とされる。昭和五七年安室バイパスが計画されたときの調査では僧坊跡らしき遺構や井戸もみつかった。

文化財をたずねて

安室地区めぐり


明治7年頃の横関絵図
（『郷土史安室』より）
横関
道標
夢
前
川
曽左小学校
薬師堂
北山古墳
道標
道標
地蔵堂
住吉神社
大日如来堂
杉池
（下池）
杉池（上池）
勝瑞寺
山田荒神社
御立公園
御立山の紀年碑
四軒屋地蔵尊
前山地蔵尊
山田古墳跡
弁財天
中池
大池
文
安室小学校
六地蔵
文化10年(1813)
一間五郎の墓
東山観音堂
善覚寺
地蔵尊
保存樹カヤ
高岡神社
常夜灯
生涯学習大学
文
安室
中学校
文
安室東
小学校
好古学園
大学校
八丈岩山
安室神社
市杵嶋姫神社
道標
観音堂
道標
行矢神社
西蓮寺
山崎山古墳説明板
地蔵尊
天満宮
文
高丘中学校
常夜灯
地蔵尊
姫路変電所
（元陸軍射的場）
起点
文
姫路高等学校
辻井廃寺跡
終点
礎石
辻井遺跡
高岳神社